日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO CALIFORNIA
PHONE PROSPECT 238
ENTERED AS 2ND. CLASS MATTER AT SAN FRANCISCO POST OFFICE
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH..... 1.00
SINGLE COPIES..... 5 CENTS

北米安住の決心

南米移住は愚の骨頂

一

北米にて既に發展せる同胞は、飽迄も北米を死守して、此處に永住の決心を以て、子孫百年の計を樹つべし。南米へは、猶ほ暫らく日本より、新鋭なる青年が渡航して、民族發展の實を擧げべき筈なれども、斯ふいふ議論は、我等の年來主張して來た所であつて、自明の理として、承認されて來てゐる所である。それに對しては南米の一部や故國の一部に、北米同胞の貯金を狙つて、これを南米開發に利用しやうとして或る一派から兎角の女句はあつたやうであるが、公正なる同胞の大多數は、常に我等の意見に贊同して來た所である。

二

最近南米諸國を一年間に亘つて視察し、殊に日本人十餘萬を收容して、最も大國ブラジルに於て大月餘を過つて、蒼き南米の實狀を研究せる田原春次氏は、あるが儘の南米を說明し、良い點も惡いも、南米の現狀を暴露せる報告を、發して、北米同胞に警告するに、南米へは北米に比して、作物は出來ず南北の爭鬪は持久戰に入つたから、從つて、北米へ移住して、安樂な日を送つた方がよい等といふ言葉は、可なり一部の人士から同胞は聞かされた所であつたが、それらの人達は、努めて南米の良いことばかりを並べて、一方に文化の低級なことや、醫術、衛生設備のないこと、教育、交通、政治、經濟等のあらゆる生活程度の北米に比しては雲泥の差のある、低いことなどは、曖昧氣にも出さなかつたもし、まだ南米轉住の迷夢に醉ふ人があつたら、其の邊を一考する必要がある。

四

南米は土地が廣くて、地味は豐饒である。氣候は溫暖だ、ブラジル人の顧は日本人と同じであるから、將來排日はあるまいなどと、將來排日はあるまいなどと、南米へ移住して、安樂な日を送つた方がよい等といふ言葉は、可なり一部の人士から同胞は聞かされた所であつたが、それらの人達は、努めて南米の良いことばかりを並べて、一方に文化の低級なことや、醫術、衛生設備のないこと、教育、交通、政治、經濟等のあらゆる生活程度の北米に比しては雲泥の差のある、低いことなどは、曖昧氣にも出さなかつたもし、まだ南米轉住の迷夢に醉ふ人があつたら、其の邊を一考する必要がある。

三

元より移民は、文化の程度の低いのは當然だ。日本人は、北米にて既に發展せる同胞は、飽迄も北米を死守して、此處に永住の決心を以て、子孫百年の計を樹つべし。南米へは、猶ほ暫らく日本より、新鋭なる青年が渡航して、民族發展の實を擧げべき筈なれども、斯ふいふ議論は、我等の年來主張して來た所であつて、自明の理として、承認されて來てゐる所である。それに對しては南米の一部や故國の一部に、北米同胞の貯金を狙つて、これを南米開發に利用しやうとして或る一派から兎角の女句はあつたやうであるが、公正なる同胞の大多數は、常に我等の意見に贊同して來た所である。

二

最近南米諸國を一年間に亘つて視察し、殊に日本人十餘萬を收容して、最も大國ブラジルに於て大月餘を過つて、蒼き南米の實狀を研究せる田原春次氏は、あるが儘の南米を說明し、良い點も惡いも、南米の現狀を暴露せる報告を、發して、北米同胞に警告するに、南米へは北米に比して、作物は出來ず南北の爭鬪は持久戰に入つたから、從つて、北米へ移住して、安樂な日を送つた方がよい等といふ言葉は、可なり一部の人士から同胞は聞かされた所であつたが、それらの人達は、努めて南米の良いことばかりを並べて、一方に文化の低級なことや、醫術、衛生設備のないこと、教育、交通、政治、經濟等のあらゆる生活程度の北米に比しては雲泥の差のある、低いことなどは、曖昧氣にも出さなかつたもし、まだ南米轉住の迷夢に醉ふ人があつたら、其の邊を一考する必要がある。

四

元より移民は、文化の程度の低いのは當然だ。日本人は、北米にて既に發展せる同胞は、飽迄も北米を死守して、此處に永住の決心を以て、子孫百年の計を樹つべし。南米へは、猶ほ暫らく日本より、新鋭なる青年が渡航して、民族發展の實を擧げべき筈なれども、斯ふいふ議論は、我等の年來主張して來た所であつて、自明の理として、承認されて來てゐる所である。それに對しては南米の一部や故國の一部に、北米同胞の貯金を狙つて、これを南米開發に利用しやうとして或る一派から兎角の女句はあつたやうであるが、公正なる同胞の大多數は、常に我等の意見に贊同して來た所である。

三

南米は土地が廣くて、地味は豐饒である。氣候は溫暖だ、ブラジル人の顧は日本人と同じであるから、將來排日はあるまいなどと、將來排日はあるまいなどと、南米へ移住して、安樂な日を送つた方がよい等といふ言葉は、可なり一部の人士から同胞は聞かされた所であつたが、それらの人達は、努めて南米の良いことばかりを並べて、一方に文化の低級なことや、醫術、衛生設備のないこと、教育、交通、政治、經濟等のあらゆる生活程度の北米に比しては雲泥の差のある、低いことなどは、曖昧氣にも出さなかつたもし、まだ南米轉住の迷夢に醉ふ人があつたら、其の邊を一考する必要がある。

四

元より移民は、文化の程度の低いのは當然だ。日本人は、北米にて既に發展せる同胞は、飽迄も北米を死守して、此處に永住の決心を以て、子孫百年の計を樹つべし。南米へは、猶ほ暫らく日本より、新鋭なる青年が渡航して、民族發展の實を擧げべき筈なれども、斯ふいふ議論は、我等の年來主張して來た所であつて、自明の理として、承認されて來てゐる所である。それに對しては南米の一部や故國の一部に、北米同胞の貯金を狙つて、これを南米開發に利用しやうとして或る一派から兎角の女句はあつたやうであるが、公正なる同胞の大多數は、常に我等の意見に贊同して來た所である。

二

最近南米諸國を一年間に亘つて視察し、殊に日本人十餘萬を收容して、最も大國ブラジルに於て大月餘を過つて、蒼き南米の實狀を研究せる田原春次氏は、あるが儘の南米を說明し、良い點も惡いも、南米の現狀を暴露せる報告を、發して、北米同胞に警告するに、南米へは北米に比して、作物は出來ず南北の爭鬪は持久戰に入つたから、從つて、北

米材對外輸出事情と日本に於ける地位 【一】

桑港總領事館 金子 豐治

▲米材の對外輸出事情
▲米材の對日輸出事情
▲對日米材の種類
▲對日輸出米材關稅との關係
▲日本市場に於ける米材と他の外材との關係
▲將來の日本木材市場

一、米材の對外輸出事情

合衆國の木材業は過去數年間に著しく變化を來し國內の消費高を減じこれと反對に對外輸出高を增加してゐるこれが原因は木材の代用品が特に建築界に現れて國內木材市場に大なる脅威を與へたか他方木材の生産高も引つゞき平調に出廻つてゐるため木材會社は競ひその增加生産部分を外國市場に賣捌かねばならぬことゝなつたのである即ち一九二〇年における木材の對外輸出高は全國生産高の五歩三厘であつたが一九二六年には全生産高の約八歩を外國へ輸出してゐる而して二〇年の米材の對外輸出高は全米の對外輸出高の約三割一分を占めてこの額は一千九百三十八萬二千「ボード、メジュアル」呎（厚さ一吋にして一平方呎）に達し米材の第二位得意先なる英國への輸出高の約三倍に上つた一、米材の對日輸出事情

日本が米林の得意先として重きを爲すに至つたのは漸く一九二一年であつてこの以前は歐洲大戰の影響で市價惡騰しすべての建築素材は殆ど休止の狀態にあつたが一九二一年の冬中東京その他の大都市に大火災ありその翌年春早々東京大阪及び神戸等は市建築物の改造を整理し同時に戰後購買力の增進及び生活の改善等と相俟つて益に俄然木材の生産國なる米國はもとより右の急激なる需要を全部充たすことは出來ない事情にあつたので日本は止むしき米材を輸入することに眼を轉ずるやうになつたが恰も此當時は「シャトル」方面よりの木材運賃が戰役中一千「ボード、メジュアル」呎、四五十弗なりしものが約十弗に低下してゐつた矢先であり且米材相場も下落して例へば日本へ最もよく賣れた米松は、一九二〇年中一千「ボード、メジュアル」呎當平均三十六弗七十八仙のものが一九二一年には十九弗九十八仙を唱へた右の如く價格及び運賃の低落して米材は日本佛蘭西の地方より出廻る木材よりも約二割方格安で且短時日の間に横濱、神戸、門司、大阪、名古屋、清水、新潟、小樽、室蘭、釜山、仁川、大連、青島、上海、香港、ウラジオストク、ポートアーサー、ダルニー、ペトログラード、ニコラエフスク、ハバロフスク、ウラジボストク、ポートランド、シアトル、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ニューヨーク、ボストン、ロンドン、ハンブルグ、ロッテルダム、アントワープ、ブレーメン、ハーグ、ベルリン、ストックホルム、ヘルシングフォルス、ヘルシンキ、ヴェニス、ジェノア、ナポリ、マルセイユ、ボルドー、ハバナ、ブエノスアイレス、ロサリオ、ヴァルパライソ、カルカッタ、ボンベイ、カラチ、ペナン、シンガポール、ジャカルタ、スラバヤ、マニラ、ホノルル、ヒロ、ポートモレスビー、ラバウル、ポートダーウィン、ケープタウン、ダーバン、ポートエリザベス、ポートサイド、アレキサンドリア、ポートルイス、ポートオブスペイン、ポートアントニオ、ポートキングスタ

豫期せぬ二千弗の金 邦人の懷へ無事に

土地法違反の恐れあつた 鶴井氏勞賃支拂要求解決

サンレアンドロ在住農業家鶴井喜三郎氏は二年前勞働契約の形式の下に白人地主アモレル氏より借地せぬキューカンボ耕作を自己農園より生産の分はすべて地主を通じてキャナリに送つてをつたが未だ支拂ひを得ない前に地主アモレル氏は死去したので氏はやむなく在日を通じて勞働賃金支拂ひ要求の形式の元に遺産整理人に向け三百九弗二十五仙を請求中であつたがこの程遺産整理もいよいよ完成したので右金額は在日幣でいふ八百九弗二十五仙を請求中であつたものであるといふが無事に受取られて非常に悦んでゐるよ

亂行の獨帝妹が 皿洗ひと結婚

六十一歳の狂戀の女主人公 新郎は廿七才の美男 今様伯林『吉田御殿』

世が世なら獨逸帝國王ウイルヘルム二世として世界に響いた獨逸ポン市でロシヤから來たサンプルグリッペ太公妃が一昨日結婚された新郎は二十七才の美男新郎は六十一才の白髮でオランダ、ドールンに蟄居中のカイゼルは光榮あるホーヘンツオレル皇室の最後を汚すものだと烈火の如く腹したが一九二〇年共和國獨逸となつた憲法上いふ支那人は今度の大洋丸で懷かしい故郷廣東に歸ることになつた。昨日はルフ市長初め近所の堂々たる有識者連中が出掛けて涙の送別をやつたが右支那人は今から五十三年前十五の年渡米し獨桑港のパイオニアとして知られたグリオ氏邸に働き日商なく同家の四代に五十年間を忠實に仕へ近所界隈からも「チャーリー、グリオ爺さん」として慕はれてゐた四度續けて市長になつた名譽のロルフ氏も幼いときから親切に世話され非常な伸良してあつたさ

二貨物船 昨日入港す

三井秋葉山丸と郵船鳥羽丸

昨日は日曜日にかはらず、日本貨物船が二艘入港した、一は三井秋葉山丸郵船鳥羽丸丸は三井秋葉山丸は今から五十三年前十五の年渡米し獨桑港のパイオニアとして知られたグリオ氏邸に働き日商なく同家の四代に五十年間を忠實に仕へ近所界隈からも「チャーリー、グリオ爺さん」として慕はれてゐた四度續けて市長になつた名譽のロルフ氏も幼いときから親切に世話され非常な伸良してあつたさ

人情に東西なく 市長が涙の別れ

五十年間を忠實に働いた老支那人の歸國を惜んで

黑人奴隷小說「アンクル・トムスケビン」より涙ぐましい話ムスケビン」より涙ぐましい話ロルフ市サンノゼ街ロルフ市長邸の隣家なるゼームス、グリオ氏方に久しくコックとして雇はれてゐたユーエホンさいふ老支那人は今度の大洋丸で懷かしい故郷廣東に歸ることになつた。昨日はルフ市長初め近所の堂々たる有識者連中が出掛けて涙の送別をやつたが右支那人は今から五十三年前十五の年渡米し獨桑港のパイオニアとして知られたグリオ氏邸に働き日商なく同家の四代に五十年間を忠實に仕へ近所界隈からも「チャーリー、グリオ爺さん」として慕はれてゐた四度續けて市長になつた名譽のロルフ氏も幼いときから親切に世話され非常な伸良してあつたさ

盛大だつた 南米講演

入場者滿員

金門ホールにおける田原春次氏の南米講演會は豫定通り一昨日午後七時より開催された、當夜は開會數迄に上と上りて滿員の盛況で人氣を裏書するに十分だつた、先づ田原氏が約一時間に亘る南米移植の講演したがみぎに對して當市の新進クラブ小川に對して杉山、平塚、池田の三青年實業家を發起人として開催したが午後七時より開催された、當夜は立會演說申込み、質問

日米詩壇

愛撫
加川文一

一本の杉の木が立つてゐる
毎日々々
凍つた冬の地は何處迄も
靄り
杉の木は重く濁つた私の腦の
底に灰色の根を下し
そして縛りつけて
冬の空に向つて立つてゐる
冬は私であり
私の中には日々一本の杉があ
つた
杉の上には淋しく溶けた
冬の太陽があつた
私は薄暗い古鏡に
黄濁く伸びた爪でキヅをつけ
てゐる

何處に行く
林田香村

魂が
脳になつて飛び去る
北につめたい國
復と歸り來ぬ
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
俺も人間だ
心氣あわだつ
闇世　寒夜に
身がぞつとする
二七、一一、一四

晩秋の宵月
田中春峰

乙女の涙をぬぐつたやうな空
から
相變らず淋しさうに眺いてゐる
月
葉先のカサ〳〵する音以外に
は何のけはひもなく晩秋の宵
は靜かです
だが！
お前は姿麗といふ言葉を知ら
ない
お前には年長と勇躍と希望が
あるばかり……
おゝ！晩秋の宵月よ

何もない
默醉

あの偉い人が死刑になつた
あの人も死刑になつた
あの人も死んで行つた
雲のやうに消ねて行つた
何も無いぢやないか
世の中の人は
僕こ何の關係があるだ
僕の人生は
一人で生れて
一人で死んで行く
さびしいものであるが
秋の日和の大氣のやうに
澄んでも居る

雨後
伊波院

雨後の空は
はれやかに澄み渡り
微風は　靜かに
若き乙女の腦粉の匂ひを
もたらしてくる
乙女はにこ〳〵と
柔い髪は
うつくしい小波を漂はすのだ
おゝ　腫れきつた頬よ
すべて
あごの下から胴體へと
健全な官能をぎら〳〵光らせ
てゐる

私の先生
低引滿代

私の先生は
お年は十九
金の髪碧い眼の
美しい女
新しいゴム毬の
張り切つたその
白いまんまるい感觸
斷り髪に　短袴

日米俳壇

白ら波
下山逸蒼

默々ここの原始林に斧入れる
あらゆる足跡消しては白ら波
鳥よくわへて來たもの集にする
棲棚が薄霧にハナサキ折られて
土人跣足なアリゾナへ流れて來てゐる
五仙電車で行ける小春の海もつ
たほさつぱな海に締めくくりつけ
暖冬の國に住み狂れふやける
死骸のみ載せたよへる漁船の貝が
ここまでも大股に濤は歩かす
顔つくつてゐる姿見の裏から時雨れる
冬海根ここそげ持つて來た昆布のぬめり
土人らゆ春視ひ日の顔彩つて
自動車さびた電車さびせかせか歩るかす
海にもまれて角とれた木片があるよ
寝具貧ひ小春の旅を何處までつゞくる
雨後の鍵孔さぐる合鍵がある
跣足の土人が撞き更かす夜長の珠音
潮の水母に泌みこむ星ある

片井溪巖子

金が少ひ　ポケットの手
夕燒小燒　ゆ　樹の勢ぞろへ

橘吟社例會

十一月十三日午後、たちばな發行所に開催
會者　蘇村、蜻誤、旭水、其羅、荒城、文夫、芝青、北湖、紫翠、寶玉、白鎖、三海風、白萍
席題「大根」「水鳥」

芝青　踏む土のゆるぎて抜けぬ大大根
同　好晴やちゞみそめたる掛大根
松翠　土深く折れし馨きや引き大根
同　大根引くや片足畝に踏みしめて
蘇村　草庵の門の日向や干大根
同　大根引くや柿葉赤りの畑の土
其羅　裏庭の大根まばらに殘りけり
同　洗ひあげて太き大根そろひけり
白萍　雨雲をかぶる風車や大根引
同　夕鐘を聞きつゝ大根引きにけり
北湖　大大根引きぬけば葦ちぎれけり
同　雨かかる子大根や老の急痴
荒城　これは又殊に奪ある大根かな
同　魚買ふて戻りに貴ふ大根かな
三海風　引きざまに折れし大根やみづゝし
同　土の香を親しみながら大根引き
泪　引き殘る大根に蟲のつきにけり
同　砂畑やむらがり茂る葉大根
旭水　水鳥に船波太く及びけり
同　いつしかに羽ごとなりて浮蘇鳥
同　水鳥のクタこ過きたる目路の闇
其羅　浮蘇鳥廻りてボート漕ぎにけり
玄夫　旭のつこ閃く露や大根引き
同　鶯門に大根車引き入れし

日米歌壇

白ばら
サリナス　すみれ

朝なゝ一ロすゝぎ終れば窓の外の白ばらの花我と對へ
いとしさに指をふるれば現實に冷たき露の玉はこぼれつ
白ばらの床しき香ほりと我心ゆきかひ作らしばしたゝずむ

猫
朝なゝ一ロすゝぎ終れば窓の外の白ばらの花我と對へ
いとしさに指をふるれば現實に冷たき露の玉はこぼれつ
白ばらの床しき香ほりと我心ゆきかひ作らしばしたゝずむ

ひそかに唄へる
朝吉

起き出て朝餉炊けば我足にまつはる猫のいぢらしきかな
眞白なる綿もて作るおもちやかと思はるゝこの白猫は
母の云ふ言の葉眞似ついとし子はもろ手に抱て猫を愛でつゝる
斜なる夕陽を浴びつ戸の外に主を待ちあぐみ小猫眠れる
ことにしやう
おれの生れた日はおればつかりがうれしいので　あつてはな
るまい金を送つてやらう
君のおん名は乙女なら
紅い血潮のあるものを
今宵夜空に立ちつくす
わしが心のせつなさを
解いてもくれずぬばたまに
閉ぢて下した君が窓
今宵の雨さならば間に
君が窓べの花一つ
ほつりと折つて行きませよか
ほぐれて散つて泣いたなら
明けての悔さなるでせよか
あすの憂びがあればとて
咲いたものなら小夜嵐
吹かねば恋の散るものと
昔たとへがないぢやなし
まゝよ散れ〳〵散るからは
さんざ時雨に濡れて散れ
ぐうせ明けには遠いなら
今宵の雨さならば間に
君が窓べの花一つ
ほつりと折つて行きませよか
ほぐれて散つて泣いたなら
明けての悔さなるでせよか
わしが心のせつなさを
解いてもくれずぬばたまに
閉ぢて下した君が窓

宵雨
民論

君のおん名は乙女なら
紅い血潮のあるものを
今宵夜空に立ちつくす
わしが心のせつなさを
解いてもくれずぬばたまに
閉ぢて下した君が窓

近詠十章（三）
常石芝青

なだ〳〵と胡桃の秋終りなる
小春日や欄に寂しき甲矢乞矢
薄雲の裏照る月や麓の棹
遊く年やさすらひの身に妻子
あり
落葉風勇る胡桃をひろひけり
虫の聲高まる月に遠ざかり
殘菊に峰の遊べる日和かな
菊白し千歳を契る神の前
たのみが年芝乞たゝむれ病後人
前回に誤
桔芝やの句は桔芋やの誤り

爪に書いた小説
山下上人

冬の果樹園なのだ、雨が降り
つゞいたので十人ばかりのボー
イ連はキャンプへとぢこもつて
今日もワシタップの火を圍んで
話に花をさかせてゐた。
まだ十七になつたばかりの松
三郎はみんなの話に聞き入りな
がら、ダバムを卷紙に入れ、紙
の端を舌の先でぬらしてから、
今しもそれをグルッと一卷まき
つけたところであつた。と、不
意に、ピシャリ！彼の手をイヤ
といふほどなぐりつけたものが
あつた！タバコはあたり一面に
散つて——一同はたゞあつけに
とられて目を見はつてた。
「何しやあがる！」松三郎は
すつくと立ち上がつて曲者を眺
みつけた！が、彼の勢ひは急に
にぶつてしまつて、ぐんなりと
首をたれ唇をかんで立ちつく
してゐるばかりでおつた。彼の
手をピシャリとやつたのは伯父
の菊次であつたのだ。日頃彼に
タバコを吸ふなと意見しつゝあ
つた菊次は、さびしく立つてゐ
る彼を見て、口を曲げてニヤリ
と眠らしい笑ひを浮べて言つ
た。
「お前の　タバコの卷き　方は
ドダイ　なつて居　らんぢやない
か！」
「いらぬお世話さ！」と彼は
思つたが羞恥と憤怒と、憤怒
と彼の腦は噴火口のやうに燃
ゐてゐた。伯父ッて一體なんな
のだ？……さ思ひつめると、不
覺にも熱い涙が彼れの頬を傳つ
た。桑港へ上陸した時分、頼よ
つて來た伯父が波止場で彼れを
つかまへて、何よりも先に斯う
いつたのを思ひ出た。
「松三郎、お前はなにしにア
メリカへ來たんだ！」
新しい涙が、又しても湧き出
るのであつた。

橘吟社「水鳥」の詠歌

▲秋末に迫つて世はなんとなく
心忙しい頃となり、新年文藝
が一齊に募集され始めたので
筆の人も自ら多事さいふわけ
だが、有終を美をおさめる國
だけに家稽家諸兄の精勵み願ひ
たい。
▲碧府「橘吟社」の詠歌は
てこゝに掲げた、同社同人諸
氏の絶ゆざる精進に敬意を表
せねばなるまい。
▲恰も同社は創立五週年記念
號賞供句が募集されてゐる。
題は「小春」「句」「無制限」
者は常石芝青氏、締切は十二
月十日、發表「たちばな」新
年號、賞品は天、地、人に銀
製カップ、五客に俳書、秀逸
十句に短册、宛名は「橘吟
社」住所氏名明記アドレス
116 S. Hewitt St. L. A.
▲月隠欄が狭いので、評論
想その他の連載物は半常の四
面に掲げるの止むなきに至
す、寄稿家諸兄の了解を願ひ
ます
▲尚この程渡米された前武氏
驚中央電氣株式會社の阿部茂夫氏
が白蓮、伊藤燁子女史の集になる
和歌短册を約六十枚持參し
た。これは同氏等が專念努力
中の民衆藝術費の一助とする
ための持參で一枚十銭を以て
一般愛好家に割愛する。
なつた、希望の諸兄は本紙
文藝欄係り宛に御申込下さい
ば喜んでお取次いたします。
▲新年の文藝は次月十五日が締
切日ですから明日までに寄
て會心の作をお送り下さい
書には必ず「新年文藝係」と
明記を願ひます

新年文藝募集
締切十二月十五日

昭和三年度の新年號に掲載すべき文藝作品を左の規定により
募集します。奮つて應募あらんことを希望します
日米新聞社

▽種類
一、論文（以内）（四字詰百五十行）
甲、在米同胞の新發展策
乙、第二世と米國の政治
一、短篇小説（百行以内）（十四字詰二
一、短歌（新年雜詠）
一、俳句（新年雜詠）
一、詩（新年雜詠）
一、川柳
一、へなぶり
一、一口噺
一、童謡（以上何れも在米同胞
の實生活に因んだもの）

▽賞金
論文、小説一等十五弗、二等十
弗、三等五弗、和歌、俳句、川柳
なぶり、一口噺、童謡何れも
一等三弗、二等二弗、三等一弗

▽應募規定
一、投稿は各種別紙に認むる
こと
一、紙上匿名自由なるも住所
氏名を明記すること
試筒には「應募新年文藝」と
記すること
一、締切十二月十五日

Dr. LAU YIT-CHO
502 Grant Ave., S. F.
Phone China 224

梅毒、痳病專門全治保證
男女内外科、皮膚血毒、
神經、慢性、滯經、產科
劉初日
（診時間）午前十時至午後七時
（日曜日）午前十時至午十二時
桑港グラント街五〇二
電話チャイナ二二二

公認調劑
郵送無料
グッド城岩
新薬
日本常備品
ナイス……二弗　字律教命丸……一弗
中將湯……一弗　小兒奇應丸……一弗
命の母……一弗　胎毒下し……一弗
六神丸……二弗　人參エキス……一弗
活力素……二弗　理光ヴィタミン……二弗
胃腸薬
ソリセイダ
腸病にも能く効く、當店唯一の「自慢藥」定價　一弗五十仙、四弗
安全イージー月さらへ　五弗　九弗
羅府で評判のよいベック博士の胃腸藥を御試しあれ、如何なる急性慢性の胃腸病にも能く効く、當店唯一の「自慢藥」定價　一弗五十仙、四弗
米國婦人界に於て絶大な賞讃歌迎を博しつゝあるケーレー博士の洗經逐閉藥は一月經閉止三四ヶ月以内迄は確實なる効を奏し最も容易く安全に應用の目的を遂し……且身體には少しの障害をも及す事なく頗る滿足を與ふ」
殺菌産婦
セーフテーブースト　二弗　五弗
体温に依り一二分間に解け絶ての毒菌、生菌を殘らず撲滅す但し爽快にして安全無害其他日本式製品サック類一切取扱へり註文次第個人名義にて密送する（郵送料不要）
◉治腫新藥ゴノキール　價　五弗
洗藥器を要せずして急性、慢性淋疾を迅速に平癒し而も再發せざる故ハフキン博士は讃る
◉毒瘡浮血ピューリン　價　五弗
ハフキン博士
強毒、痔毒、體内の毒氣も取得る家庭治療劑
射を要せず體内の毒氣も取得る家庭治療劑
加州羅府東第一街二〇一　(Tel. VA 9110)
THE IWAKI DRUG CO.
201 E. First St., L. A., Calif.

ASTI COLONY
ブドーの汁
製造工場より直接御家庭へ

The reputation of Asti Colony products for the past 50 years is your best guarantee of satisfaction.
—（すまり居てし博を評好御の樣皆は品製の間年十五店當）—
イタリアン、スイス、コロニーのむしい葡萄酒及有名なアステコロニーのバーガンドリーミリエスリングを御存じですかこの名高い葡萄酒を他へは味はい下さい。
最新式工場＝ブロードウエー街五十一＝では純良のブドーより精製して居ります。そして直接に宅まで安價にて配達致します。
カーネー街の電車十六、廿九に乗りになれば當店の前まで來られます。
電話ダベンポート九二五〇をた呼び下さい。
ITALIAN SWISS COLONY
51 BROADWAY,
San Francisco

メルフイシア・カアノ屋製會社
代理店
松本肥料商會
M. Matsumoto
2204-A California St.
San Francisco, Calif.
カマボコ
製造卸小賣
金門商會
桑港グリー街一五二九
電話ウエスト四三七九
特に御贈答品は御注文次第
▲調製鮮魚食料品一切▲
グリーヂは今回自動車局より
第九百九十三番の自動車發火檢
査所に指定されましたから日本
人諸君の便利を計ります
アロー・グラージ
1701 Sutter St.
Tel. West 3503
▲御料理▲
グスト街一五四五
電話フィルモア三〇一九
お多福
グリー街一九一〇
電話ウエスト六四二五
菊川亭
ゴヤナン街一七一八
電話ウエスト四三七九
うすゝみ
ゴヤナン街一八六八
電話ウエスト四三七九
みどり
自動車塗替專門
總て保證附、大急強數します
ラッカー自動車ペイント會社
コーオプ
719 Golden Gate Ave., S. F.
Polne-Hemlock 7478

レタス種子
日本人の耕作元祖
常國のニューヨークスペシアル
レタス種子は
マヂリなく必らず
玉を結ぶか特徴！
ピー新種各種
日米種物特賣表無代進呈
米各野菜種子物
卸小賣
ホリスター種子物園
山中丈吉園主
樓閣僅廿四年間
Hollister Seed Co.
P. O. Box 715, Hollister, Cal.
鮮魚、精肉
和洋食料雜貨一切
蒲鉾製造卸小賣
桑港魚市場
桑港ポスト街一七四七
電話フィルモア四二九四
苗
北澤商會
Kitazawa Bros.
838 Market St., San Jose, Cal.
Tel. Ballard 64
Res. Phone Ballard 6690-W

公認調劑
郵送料無
大阪藥店
強壮薬
朝鮮人參
本産
湯
ヨヒンビン
スペルマチン
一本三弗
物より十弗
二、五〇〇
五、〇〇〇
二、五〇〇
活力素
強精錠
人參精
有効
通經丸
特製　五弗
頑強用　十弗
磯實
種々の藥を用ひて効果なく困りの方は早く此の安全無害の通經丸を使用ひなさい
機能發育器
八弗　十四弗　十八弗
機能障害治療唯一の醫療器
治麻新藥ゴノタール
名博士發見
五弗
此藥を内服すれば外用藥を用ふる必要なく急性、慢性の痳疾を迅速に根治す。
安全確實殺菌座藥
三十回分　二弗
九十回分　五弗
身體に何等の害なく、體温により二三分間にて溶け、確實に其目的を達す
旭博士製毛生藥玄華
二　百　七弗　錠
桑港ポスト街一五九四電ウエスト三四七四
OSAKA DRUG CO.
1594 Post St., S. F. Calif.

日本人に親切な公證人
J. DAGGETT
事務所電話　Doug. 40
30 Montgomery St., S. F.
食料品並に牛乳
桑港グリー街一八三六
電話ウエスト二一五二　長商店

グッド日本
ニップ胃腸藥
五十錠入　七十五仙
百錠入　一弗廿五仙
蛋白、脂肪、澱粉等に総べて消化し難き物を消化せしめ、胃腸の病を治す
最新發明安全月さらへ
月經止りの心配が三日以内に安心薄
足最新醫學博士の秘方目下日本に於て一般好評ある流經劑
實驗上八十パーセント迄有効
第一號　二ケ月止りに使用の分五弗
第二號　三四ケ月に使用の分金十弗
淨血新藥　代價五弗
ニキビ、吹出物、梅毒、癤毒、凡て六百六號の注射を要せず體内の毒水を完全に除去する家庭治療藥
NIPPON DRUG CO.
1690 Post St., S. F. Calif.　Tel. West 135

御婦人子供
保險大募集

Beneficial Life Insurance Co.
ベネフイシアル險會社
本社　ユタ州ソルトレーキ市
南加支社　羅府ベチス街一二五〇一
◎本社はユタ州ソルトレーキ市モルモン宗本山管長を社長としたる宗教的保險でありまして御婦人御子供衆に有利なる點に於て他に類のない特色を持つて居る保險であります
◎家妻たる御婦人に對しても年齢の差別なく男子と同樣の特典が付き子供さんは生れた翌日から養老貯蓄保險に加入が出來尚親子共同といふ面白い保險にも加入されます
本社直接代理人
谷野武雄
大山次郎
事務所　羅府東第一街三二六
注意　本社加州代理人は私等の外、秋元、手代木は同等權限にして何人が如何なる廣告を出すも總主任等の名義はなく、加州内に於ける他の當社日本人代理人は右四名中の誰かの配下に屬する者でありますから誤解なき樣特に御注意を願つて置きます

南加版 十一月十八日 羅府支社發
女郎電話(MU)ユーチュアー 八四一五

益子殺しの嫌疑者 生田慘殺さる

—心臓をたつた一刺し— 犯人は同じ監房の墨國囚人 事件は愈々迷宮に入る

昨年末メキシカリに起つた益子殺人事件に關聯してその嫌疑者の一人として逮捕され、獄米メキシカリー監獄に收監されてゐた南部出身太平洋生命生田寅治(三二)は十八日午前五時頃、同じ監房にゐたレスなるメキシコ人のために眠眠中心臓を刺され、そのまま絶命した。益子事件は未だ解決をせず次第に復雜化しつゝある際とて樣々の取り沙汰はされ、事件はますます迷宮に入つた。

メキシカリー監獄は先年の地震期以來重罪囚は悉く監獄に收容されてゐたが、今回の事件は監獄に收容してゐた生田が、同じ監房にゐたレスなるメキシコ人に刺されたことは、獄當局の責任問題として大問題となつてゐる。

生田は本年七十三歳の高齢者であり、ハワイ中學の教授として所謂北海道函館の遺愛女子校の教頭をして故國教育界に知られ、その子弟も多く當市にも多數の親居して生田の熱心を見滿まして一方ならざりしたる約二尺ばかりの長さの鑿のはり金を以て心臓を力まかせに刺せしため生田は聲を立てる暇もなく即死した。

犯人レスは西三十五街一三六九の鈴木氏宅に投宿し、一方、生田の遺體は羅府北海道函館の遺族に向つて發送の手續を進めつゝある。

鈴木夫人の嚴父

鳴雪翁の實弟

羅府新報社鈴木素人氏夫人の嚴父宇野敎授來羅す

七十三の高齢者

宇野敎授來羅す 文宇野兼三郎氏は本日エス、エス、カラワイ號にてホノルルより來羅したが同氏は本年七十三の高齢にて若者をしのぐ元氣で、ありハワイ中學の敎授として所謂北海道函館の遺愛女子校の敎頭をして故國敎育界に知られ、その子弟も多く當市にも多數の親居して生田の熱心を見滿まして一方ならざりしたる約二尺ばかりの長さの鑿のはり金を以て心臓を力まかせに刺せしため生田は聲を立てる暇もなく即死した。

トレスは口を噤んで語らず

看守を呼んで手錠

看守はトレスを獄ぶくろに連れゆき、看守について尋問したが口を閉ぢて語らないそうであつて、官憲がはにても如何にしては金が獄中に運びこまれたのかまたその原因は何處にあるか、余く不明で謎の兇行として目下しきりと嚴重調査中である。(十九日午前九時カレキシコ電話)

横斷競爭に參加のため

五年前渡米

生田寅治は早大に籍を置いたことがあり、マラソン競爭の名手として今より五年前來港より新育地への徒步競爭に參加すべく渡米し柔道三段で相撲も強く人氣のあつた力士である

聖マリアに地震

煙突倒壞す

十八日午後七時三十分サンタマリアにおいて地震起りガラス窓はガタ〳〵震動し煙突の如きは倒壞した程でこれは二週間前に襲つた搖れ返しではないかと十マイルの幅で強震があり、いはれてゐるまた地震はロムボ及びセント、ルイス、オビスは當時報道したがこの地震が不十月四日突ランボーク地方四

「三階の窓から」

人

(百九十七)

岡 杜

千客萬來、一つ一つ話を定め御願する事はし、御相談受る事もうけ、お話しする事もしてさて此の暇々に通信に手をつける、通信に手を附け出すのが年後三時半から四時、そして六時のメール締切りに間に合せねばならぬ

◎

此の通信に手をつける時の一服、ボールモールの紫の煙の行衛を見守り、煙が窓外に流出づるのを追つて、細杖突き乍ら向かふ側のアーム、ビルディングを見ると、ビューチー、ダイ、チークスの青地に白の看板が目につく、ビューチーと云ふ言葉が氣に入つて氣持ちよくなる

◎

上體を遣ふと合同敎會の屋根の十字架の電燈が見へる、隣の窓に目をうつすとガス會社の大きなタンクをバクにして空にユーカリの梢がハツキリと其の枝の一つ一つまで讀まれる

◎

ユーカリと云ふは己の姿によく似てるなあ、ヒョロ長い、ユーカリの樣に世間の用をなさず、ボンヤリ火の中に投げ込まれるのが落てないかしら

◎

心細い樣な氣になつてまたユーカリの姿を眺ろいもの、寄るべもなく、先づ鑄木の中に入り、薪の山らしい、此のユーカリの樣にヨロ長い體の持ち主の己も此の木の樣に世間の用をなさず、ボンヤリ火の中に投げ込まれるのが落てないかしら

◎

いゝ木か、悪い木かは別として一體世間の役にたつ木か何うかと思つて見ると、如何にも人間への慾望は少いやうな、先づ鑄木の中に入り、薪となつて燃やされる位が關の山らしい、此のユーカリの樣にヨロ長い體の持ち主の己も此の木の樣に世間の用をなさず、ボンヤリ火の中に投げ込まれるのが落てないかしら

◎

いゝ木か、悪い木かは別として一體世間の役にたつ木か何うかと思つて見ると、如何にも人間への慾望は少いやうな、先づ鑄木の中に入り、薪となつて燃やされる位が關の山らしい、此のユーカリの樣にヨロ長い體の持ち主の己も此の木の樣に世間の用をなさず、ボンヤリ火の中に投げ込まれるのが落てないかしら

◎

ユーカリと云ふは己の姿によく似てるなあ、ヒョロ長い、ユーカリの樣に世間の用をなさず、ボンヤリ火の中に投げ込まれるのが落てないかしら

◎

車を所有すると否とに關せず百パーセント以上の利益を得ること容易なり商品は閃光電氣カフ御電の方は年前八時半より午後五時 1614 W.54 St. Los Angeles.

南加詩人間で『詩潮』

小冊子發行さる

紀念品贈呈

南加詩人間で『詩潮』といふ小冊子が發行された松本茂里地、塚本嶺南子、石崎南風、平田寅草、加川文一、片井螢巖、外川あきらの諸氏がその近作を發表してゐる、特ちのいい詩の小冊子で、なつかしい詩の數々である。希望者は羅府北敎街一二三番地に連絡されたしとの事、紀念品として贈呈するなん

同胞美事

法律上の事を聞き

判事を招待して

ランボーク

ランボーク地方同胞は過般新法を知るため農業家大會を開催し同地の判事たるホールソン氏の出席を請て新法律の說明を聞きたる上同氏は米人が協力して同地の農業經營にあたり新しきの徒步競爭に參加すべく渡米し野菜業を試むべしとの說したが大會では滿場一致にてホールソン判事に對し感謝の意味にて紀念品を贈る決議をなし美麗なる日露木の兩氏同氏を訪問し贈つたが同判事は大喜びであつた

地震

十マイル

ランボーク

一週間も續いて日に二三回はある

脫腸の人

無料試用

優性、急性、大小何れの脫腸にても御試用あれ、數千の患者は既に信服せり

證明のための無料送附

男女、子供如何なる脫腸の方でも此の特効ある療法の無料試用を紐育州アダムス市ライス商會へ至急申込み下さい。脫腸の部分へ當てゝ丈夫に下さい。脫腸の部は硬化して來り丁度に附着し初め固くなるが、それは自然に縮少閉鎖して支ゆ物、脫腸帶及び適用物等は不要の物、

ハンフォード學園の創立十週年祝賀會

二十三日の午後一時より極めて盛大に擧行されん

既報ハンフォード學園の創立十週年祝賀會は極めて盛大に擧行されることなり第一式は二十三日(水)午後一時よりの服部氏行はれる

一、開會の辭　司會者　林八十太郎
一、來賓祝辭　來賓代表　生徒一同
一、本學園の沿革　同　生徒一同
一、設立狀及び記念品贈呈　同　塚原熊次郎
一、謝辭　同　六氏(代表)
一、祝辭　來賓　(祝電、祝電、協會代表)
一、閉會の辭　林八十太郎

なほ當日の各部々署及來賓は追つて發表

餘興には大歌舞伎

市川右田次の一座

前掲の如くハンフォード學園創立十週年祝賀會はもつとも盛大に行はるる筈だが二十三(水)二十四(木)の兩夜餘興として新渡米の大阪大歌舞伎市川右田次一座の演藝があるプログラムは初日壽式三番叟

(引抜役廻り)前狂言　奥州安達ケ原
大功　義十外傳土屋主税
二日目　前狂言　妹背山女庭訓

(便者海より御殿まで)中幕思節女夫松(御殿より出立まで)

大功名作左甚五郎

因に右祝賀會案内狀は歌舞伎プログラム、招待券とともに印刷され北はフレスノ方面より南はデレノ方面にいたるまで約二千通を發送したよし、なほ演藝場は米國第七街の舊林原グラヂオ跡だといふ

忠誠團の新役員

昨夜の例會で選擧

米國忠誠團フレスノ支部では後報の通り昨夜フレスノ日本人會議室に月次會を催し谷田部ドクター司會の下に新待員選擧があつた左の通り選出された

會長　板水貞美△副會長　吉川新一△記錄書記　有江久△通信書記　進秀雄△會計講手　直人

右終つて谷田部ドクターの米國忠誠團の使命に關する感想談ありなほ同團に於ては西部フレスノ中央委員會へ加入については去る月次會へ谷田部ドクターが最中の二名を同會へ出席することを決議して散會したが右西部の中央委員會へ加入は前報した通り重大な意義を有するもので今後各國人民と協力して西部フレスノ市の發展並に市民の福利々政なども貢獻するところあるべき筈想されてゐる

●二十二日(水)休業　フレスノ市日本人會では二十二日(水)は小澤幹事セ▼開廷で終日開催の上入の子供(九歳)は國語にて死去

喝采を博した日本娘の舞踊

リンカーン小學校で

日本人子女のもつとも多數通學するリンカーン小學校では演藝會を開催し入のため寄附演藝會を昨夜同校公堂に催したところ、さしもに廣き同公堂の階下階上ほとんど空席を剩さぬほどの來會者であつたが可愛らしき兒童の演藝一つ一つ滿場の賞贊を博した就中

高山ちどり　刀納ゑち子
井そつ子　京極まり子　神川
あき子……ピアノ
……振り袖
……振り袖
……ピアノ

樂浦まさ子

の演藝は一段の光彩を加へもつとも來會者を滿足せしめたといふ

●マデラ佛日校　農繁のため久しく休み中だつたマデラ地の佛教日校學校は十二月四日より再開することとなつたと

●神戸郡事門ゴ電氣風呂　別項廣告の通り久保氏は今般ジー街八五一番にカイロプラクチス療病所を置き廣く一般患者の需に應するよし又同じところで堀本みすず夫人が經營する電氣風呂は諸病に効ありと

●退院　市内榊田一郎氏の娘さん全快して小此木病院退院

●寄附　羅府の水谷太郎氏はキングスバーグ學園へ二十五弗、特志寄附△バレッ山本譜一氏歸國記念として同學園へ五弗、△ファレー栗栖源二郎氏フレスノ佛教骨堂へおの〜五弗

◇……シカゴ　フリビューン(日本人移民)
◇……餘白
◇……白
◇……を剛當人國せしめ

べし論じ一ケ年に二百人位な黄色人の入國に加州が反對するなきはその州の白人種の惡劣なるを示すものだ云々と評したに對し▲例のピー紙は曰く「クリビューンは良いの他な鎖國に陥つてゐる加州は現在移民法の改正を欲せない▲その責は日本人を許すなると考ふ」と、▲日本人は小柄の男にて服裝も小忠誠團の使命に銘記する感想談あり

なほ同紙上に於ては西部フレスノ中央委員會へ加入については去る月次會へ谷田部ドクターが最中の二名を同會へ出席することを決議して散會したが右西部の中央委員會へ加入は前報した通り重大な意義を有するもので今後各國人民と協力して西部フレスノ市の發展並に市民の福利々政なども貢獻するところあるべき筆想されてゐる

●二十二日(水)休業　フレスノ市日本人會では二十二日(水)は小澤幹事セ▼開廷で終日開催の上入の子供(九歳)は國語にて死去

各國人を集めた演藝會と

オークランド

人目を引いた日本部バザー

去る十七日午後二時よりオークランド基督教女子青年會館二階で開催されたる女青年會國際部主催の「荒城の月」……振り袖姿の童謡舞踊は一段の光彩を加へもつとも來會者を滿足せしめたるは

農繁のため久しく休み中だつたマデラ地の佛人目を引き光つて見へた、連日にわたり關係者一同が日夜兼行で準備しただけあり日本部は品のもつとも多く面白き趣向の廻り行燈や巧妙なる手藝品の數々と青藝の出品は日本部の誇りとなる

なほ當日の各部は品目は次の如し

高山ちどり　刀納ゑち子
井そつ子　京極まり子　神川
あき子……ピアノ
……振り袖
……振り袖
……ピアノ

樂浦まさ子

の演藝は一つ一つ滿場の賞贊を博した就中

サクラメント（廿日）

プラサ佛教少女會
孝子政子の爲め 奔走して同情金を集む

プラサ佛教少女會では櫻府から歸國した熊本縣下の河部光次郎氏一家の窮狀に同情し長女河部政子の孝養ぶりに感激し會員一同が奔走して六十一名の人々から募り集めた合計金三十四弗五十三錢を寄支那に送して故國の政子へ送金方を依賴して來た、右の金は直に會計なる木蓮造氏に托したが他の同情寄金とともに來日熊本縣知事宛に送金されるであらう、尙寄附者の氏名は會計の名により別に印刷物として後日發表されるであらうが此分は支那取扱ひなるが故に左に一應發表する

▲一弗五十仙　上田常介、長門一▲一弗　橋爾豊一、新妻田喜一、三川弗仙太郎、日浦、藤本權吉▲五十仙　大力商店、品川坂上、西川、長崎、藤井藤本床、増田、山田明、坂上、池田、長谷川、大矢、古田代吉、池田動車のコートニー並にランチ田武男、脇中、山崎熊三、田山岩雄、市之坪、西本、進藤、堂上田中音吉、柴恕十、松田小平田田中車一、松田増雄、堂黒、砂賀易貿易社副支配人で當市糊米所上田兄弟、上田夫人、西島久太郎、谷岡十五郎、久保繁一、寺田、小泉、石川、中村、武田夫人、浦塚、平井秀本、横島、石黒成章、桑原夫人、大西、後藤一雄、森里、桑原

三人共謀で 掠鳥誘拐 五百弗ばかりを奪ふ

ウエストウッドの山奥から市中に出て來たセー・ビー・マグドナルドと呼ぶ木挽き男は憤に一方を警戒したので須市々民は喜んでゐる

●鍵誌到着　講談倶樂部、キング女藝倶樂部、各錦帶堂に到着

●婦人家庭働き入用　日本婦人家庭働き入用月給五十弗乃至五十五弗支拂ふ家族四人希望者は日曾に照會を乞ふと

●寄附　高知縣人梅原勝市氏は師團紀念として五弗日曾に寄附

●長谷川支店工事進捗　南エルドラド郡東ラフエットの角に增設の新支店工事は目下大工三名を雇ひ大車輪に遺作中であるが十二月一日開業までには金部完成すべしといふ

●猫を連れて歸國　高知縣人梅原勝市氏一家は來る廿二日發の大洋丸にて歸國することなつたが豫て梅原氏と過去九年間苦樂を共にした猫に別るゝに忍びず猫を籠に入れて本日櫻咲く日本に向ひ出發したさ

●增田氏一家歸國　愛知縣人增田常郎氏一家は一人長男を殘して子供三人を伴ひ廿二日大洋丸で出發國に氏は去六月中フレンチキャンプで愛妻をなくしたので悲しき歸國である

●林氏二の番機　櫻府屋ホテル宿泊中の岡山縣人林貫二の番機は本日午後一時須市佛教會に出發國に氏は去六月中フレンチキャンプで愛妻をなくしたので悲しき歸國である

●田邊氏出發　櫻府日々記者田邊氏は來る廿二日發の大洋丸にて歸國するこゝになつたが豫て梅原氏と過去九年間苦樂を共にした猫に別るゝに忍びず猫を籠に入れて本日櫻咲く日本に向ひ出發したさ

●海老名氏來櫻　桑港の海老名一雄（春舟郎）氏はユーキャッスル青年會講演會に聽せられて櫻府に來櫻し同地に向ふ

●藤矢氏出發　當市藤矢時計店昨十九日來櫻し同地に向ふ

竹本氏大說教

櫻府の如く故國教壇の重鎭靈化の感ある櫻府の急先鋒である同氏は本日午後一時來須門池氏宅に入り警敎會少年部の第二バイレットを佛基督敎會の第二バイレットと合し十三—十六歳八時より基督敎會の上一組と試合をし銀廿五—十六組の勝利に歸した

須高の勝利 蹴球戰

加州高等學校蹴球聯盟のチャンピオン・コンテストに加入してゐるローダイ、須市高校の蹴球の戰は本日（十八日）午後二時半より太平洋太陽場に催され櫻客一萬人に達し三八—〇で須市高校の大勝利に歸した。大年ぶりで始めて勝つた蹴ひに須市高校は一同の喜びに堪へず講演なしは一同の喜びに堪へず講演者に對し一時間座談にて會員相互の智識を振はれ、次に一家に於ける婦人の任務を平易に說明され最後にこの重大なる任務を全うするには偉大なる婦人の愛の力に外ならず大に自覺し修養を以て情きたるを分らしは五時頃なりき

●講演會　去十四日夜櫻府の坂東榮吉氏の報告演說並に教育活動寫眞は大盛況を以て行はれた

●寄附　宮井夫人歸國紀念として婦人會へ五弗寄附せらる

須高の勝利 蹴球戰

日バカビル佛教會講能師教使の講演あり、氏は十一時内本夫人の紹介壇上人となり婦人の力は偉大なり說き起し實例を以故國名士坂東榮吉氏に於て熱涙を振はれ、次に一家に於ける婦人の任務を平易に說明され最後にこの重大なる任務を全うするには偉大なる婦人の愛の力に外ならず大に自覺し修養を以て情きたるを分らしは五時頃なりき

●講演會　去十四日夜櫻府の坂東榮吉氏の報告演說並に教育活動寫眞は大盛況を以て行はれた

●寄附　宮井夫人歸國紀念として婦人會へ五弗寄附せらる

婦人會例會

さる十三日午前十一時より婦人會例會を催す出席者廿名、この日バカビル佛教會講能師教使の講演あり、氏は十一時内本夫人の紹介壇上人となり婦人の力は偉大なり說き起し實例を以故國名士坂東榮吉氏に於て熱涙を振はれ、次に一家に於ける婦人の任務を平易に說明され最後にこの重大なる任務を全うするには偉大なる婦人の愛の力に外ならず大に自覺し修養を以て情きたるを分らしは五時頃なりき

スタクトン（十九日）

暗夜二人連れの强盜が 銃丸を喰て逃走す
錠前を硝酸クリセリンで破壞

ここが軒つた

▲尙當夜一人の賊は既に銀行に立つて二階の窓より銀行前の人の雲霞の如く集ひ人仕事中に發見され數發の銃丸を發はれ一物をして爆發した銀行の床の上には銀貨が突大に散亂してゐたが紙幣及金貨の所在は探し得なかつた。當夜の事情を報道するに當り常なる惨狀を發見し附近の農園を檢分し驚した英大な密盜器を發見し同夜二人の賊は逃走した事件が報道されたるや當市は一時騷然となつた

▲一人が姿を見出だしたので二階から賊の頭上目がけて數發を撃ちかけ、その時他の一人が銀行内より現れ來る盛んに火藥をきつたが響くしてこの賊は直に消へ去つた。今人の姿は暗闇に消へ去つた。今朝に至つて極々調査の結果地上に非常な血痕を認めて鮮に出で其處で自動車に乘つて去つたこと判明した

▲尙當夜一人の賊は既に銀行に立つて二階の窓より銀行前の人の雲霞の如く集ひ人仕事中に發見され數發の銃丸を發はれ一物をして爆發した銀行の床の上には貨幣が突大に散亂してゐたが紙幣及金貨の所在は探し得なかつた。當夜の事情を報道するに當り常なる惨狀を發見し附近の農園を檢分し驚した英大な密盜器を發見し同夜二人の賊は逃走した事件が報道されたるや當市は一時騷然となつた

●土地賣りたし　フロリン、エルドラド市氏一家は來る廿二日發の大洋丸にて歸國することになつたが豫て梅原氏と過去九年間苦樂を共にした猫に別るゝに忍びず猫を籠に入れて本日櫻咲く日本に向ひ出發したさ

●增田氏一家歸國　愛知縣人增田常郎氏一家は一人長男を殘して子供三人を伴ひ廿二日大洋丸で出發國に氏は去六月中フレンチキャンプで愛妻をなくしたので悲しき歸國である

●林氏二の番機　櫻府屋ホテル宿泊中の岡山縣人林貫二の番機は本日午後一時須市佛教會に出發國に氏は去六月中フレンチキャンプで愛妻をなくしたので悲しき歸國である

●田邊氏出發　櫻府日々記者田邊氏は來る廿二日發の大洋丸にて歸國するこゝになつたが豫て梅原氏と過去九年間苦樂を共にした猫に別るゝに忍びず猫を籠に入れて本日櫻咲く日本に向ひ出發したさ

●海老名氏來櫻　桑港の海老名一雄（春舟郎）氏はユーキャッスル青年會講演會に聽せられて櫻府に來櫻し同地に向ふ

●藤矢氏出發　當市藤矢時計店昨十九日來櫻し同地に向ふ

竹本氏大說教

櫻府の如く故國教壇の重鎭靈化の感ある櫻府の急先鋒である同氏は本日午後一時來須門池氏宅に入り警敎會少年部の第二バイレットを佛基督敎會の第二バイレットと合し十三—十六歳八時より基督敎會の上一組と試合をし銀廿五—十六組の勝利に歸した

須高の勝利 蹴球戰

加州高等學校蹴球聯盟のチャンピオン・コンテストに加入してゐるローダイ、須市高校の蹴球の戰は本日（十八日）午後二時半より太平洋太陽場に催され櫻客一萬人に達し三八—〇で須市高校の大勝利に歸した。大年ぶりで始めて勝つた蹴ひに須市高校は一同の喜びに堪へず講演なしは一同の喜びに堪へず講演者に對し一時間座談にて會員相互の智識を振はれ、次に一家に於ける婦人の任務を平易に說明され最後にこの重大なる任務を全うするには偉大なる婦人の愛の力に外ならず大に自覺し修養を以て情きたるを分らしは五時頃なりき

婦人會例會

さる十三日午前十一時より婦人會例會を催す出席者廿名、この日バカビル佛教會講能師教使の講演あり、氏は十一時内本夫人の紹介壇上人となり婦人の力は偉大なり說き起し實例を以故國名士坂東榮吉氏に於て熱涙を振はれ、次に一家に於ける婦人の任務を平易に說明され最後にこの重大なる任務を全うするには偉大なる婦人の愛の力に外ならず大に自覺し修養を以て情きたるを分らしは五時頃なりき

●講演會　去十四日夜櫻府の坂東榮吉氏の報告演說並に教育活動寫眞は大盛況を以て行はれた

●寄附　宮井夫人歸國紀念として婦人會へ五弗寄附せらる

當國語學校

東分教室新築落成につき去十四日より開校し圖區域内見童十一名と新に入學せし兒童數十二名を以て本校と合せて總數五十八名となれり

●出生　鮮魚販賣商山本定吉氏は威服の外なく大谷若夫人の銀鈴の如き美聲に驚かされ小畑夫人の安來節に二上り新内に至り母子とも至つて健全なるよし

●義太夫　去十四日夜櫻府の坂東榮吉氏の報告演說並に教育活動寫眞は大盛況を以て行はれた

●講演會　去十四日夜櫻府の坂東榮吉氏の報告演說並に教育活動寫眞は大盛況を以て行はれた

篇長 砂繪呪縛 土師清二

（一三五）

四五人の足音

「だがナ、佐吉」

「へい」

「俺も最初は重四郎のいふことはウソだと思つてるたんだ」

「……とは、何を？」

「つまり、あの娘がまだ無きず」

「へい」

「つまり、あの娘がまだ無きずでるるなんてことなのだ。重四郎は無きずだといつたが、俺は丸つきりウソだとにらんでるたのだ」

「へい、それで」

「さ、ところが、さうやらよく考へわたり見たりしてるると全くあの娘無きずらしい……」

と紋吉。

「さうだかなア……で無きずだふ言もない。

紋吉は凝ッと聞耳を立てゐるが、佐吉に「おめね、聞ねるか？」

「こゝにゐるまかい？」

「うム、ゐようぞ」

それから二人は、膝小坊主を抱き合つたまゝ、だんゞ〜暮てくる板の間にすわつてゐるのだつた。

奥の部屋では重四郎、うたゝ寝でもしてゐるか、コトリといふ音

The Japanese American News
THE LARGEST JAPANESE NEWSPAPER PUBLISHED OUTSIDE OF JAPAN
K. ABIKO, PUBLISHER AND EDITOR
650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA
ENTERED AT S. F. POST OFFICE AS SECOND CLASS MATTER
SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
ONE YEAR $11.00
SIX MONTHS $5.50
ONE MONTH $1.00
SINGLE COPY ..... 5 CENTS

AMERICA AND ENGLAND

Distinguished British statesmen and others, speaking on Armistice Day in London, sounded a note of caution and warning that war may again visit the world.

This note of warning not only appeared in several speeches but also in news dispatches and editorials. Viscount Grey, British Foreign Minister from 1905 to 1916, one of the speakers of the day, said in part: "I think there is nothing more fatal in respect to naval armaments than that there should be rivalry between the United States and Great Britain. The two nations will soon be building fleets, not so much for requirements as for prestige."

Whether, as Viscount Grey says, America and England are building their fleets merely for prestige and not so much for requirement, it is not for us to say. The fact remains, however, that at the Geneva arms limitation conference early this summer, the thing which astonished the Japanese delegation more than anything else, was the attitude of the Great Britain towards the United States.

It had been the general belief of Japan that the United States and Great Britain would always stick to each other, or at worst, that America would stand neutral.

That this belief was not shared by Great Britain became apparent as the conference continued, and it was plain towards the termination of the parley that the United States as well as Great Britain were preparing for the time when the worst might come, which would not, contrary to general belief, be a state of neutrality of the United States towards Great Britain and of Great Britain towards the United States, but a time when these two countries might meet each other in open battle.

It seemed to be the British policy that in the next war, the most uncertain thing would be with whom the United States would side, and therefore every precaution must be taken in the event that hostilities broke out in which Britain might find herself opposed by America.

We are inclined to think, therefore, that what Viscount Grey maintains regarding the building of fleets by the two nations not so much for requirements as for prestige, is not wholly true. World Powers in this day do not construct navies merely for prestige but for preparedness. And, as we look at the matter from the viewpoint of a disinterested party, it appears very much as though Great Britain and the United States are building greater fleets for Preparedness,—against each other!

There is, as Viscount Grey says, nothing more fatal in respect to naval armaments than that there should be rivalry between the United States and Great Britain. Let us hope that these countries will return to their senses before it is too late.

S. F. PLANS RECEPTION FOR DOLLS

School Children To Gather For Welcome

Whole America extends its arms in welcome to the Japanese friendship dolls arriving in this port from Japan on Friday, November 25, aboard N. Y. K. liner Tenyo Maru, and elaborate plans for reception of the dolls here is being planned by various workers in behalf of international friendship.

Under present plans the whole school children of the San Francisco public schools will be assembled for a formal welcome program on Monday, November 28, and among the leaders of the receptions committee sponsoring this welcome include Mrs. James Rolph, wife of the mayor of this city, and Mrs. Morgan, wife of the American multi-millionaire.

Another reception program will be held at the Fairmont Hotel on Thursday, December 1, when prominent people will gather to conduct appropriate ceremony of welcome.

In order that the Japanese populace of this city will also have an opportunity of witnessing these precious friendship dolls from Nippon, the local Japanese reception committee has arranged for displaying these dolls at the Kinmon Gakuen on Bush street.

After exhibition throughout the United States, they will be placed on exhibition at the Metropolitan Museum of New York.

SHIGAKKO

By Iwao Kawakami

Sometimes it seems so strange
That there is no change
In scene but man—
Often true in Japan.
Cold winters of snow
Are same as long ago
With snow laden on each house
And snow laden on pine boughs;
White blankets of snow on steep
Mountain-sides—two feet deep.
'Twas thus in February
That the assembled army
Of men from Shigakko
Started the invasion of Kumamoto.
Though women must grieve
To bid their beloved leave,
The sons of war are gay
In their gallant array
Of "hachimaki" and "hakama"—
Iron-faced samurais of Satsuma
Fifteen thousand in line.
See the flash of sunshine
On the guns and swords!
Servants and lords,
Horses and men
Marching into Kumamoto-ken.

Like Fun

Now—shall I forget
That my adored one,
Lovelier than Juliet,
Invariably says: "like fun?"

A growing plant appreciates
The warming rays of sun.
But she—she depreciates
My praises with: "like fun."

Although I insist
"You're the only one
I have kissed."
She answers: "like fun."

With love's mad pain
I must be done.
I'll not see her again—
But she says: "like fun."

Mike Matsushima To Pilot Pirates

STOCKTON—At the Pirate club's meeting held last week, election of officers was held. Michael Matsushima was elected President for the coming year; secretary, John Kanemura; treasurer, Kenk Oshidari; Ted Ohashi, general manager of sports; George Kawaguchi, assistant; and Michael Matsushima, captain of the football team.

PARAMOUNT FILMS FARM IN REDWOOD

Japanese Presents Chrysanthemums To President

REDWOOD CITY—The Japanese chrysanthemum growers of the Penninsular district including San Mateo and Santa Clara counties have been increasing each year, and at present time some thirty-two Japanese firms operating forty-acres of nursery harvest a combined output valued at $400,000. Capping this prosperity, Makio Watanabe, prominent grower of Redwood City, sent a bouquet of beautiful white and yellow chrysanthemums to the President and received a letter of thanks from Mrs. Coolidge.

These good news have entered the ears of the Paramount film producers of Hollywood, and the result was that special cameramen from the Los Angeles studio journeyed to Redwood to take films of the field of white and yellow chrysanthemums on the farm of Watanabe. Ten American girls from the local grammar schools wore white uniforms and produces atmosphere for the film. These films will presently be shown all over the United States.

Echo Clubs Enjoy Farewell Social

The members of the Silver and the Golden Echo clubs of the local Japanese Y. W. C. A. enjoyed a very pleasant evening of informal house party Tuesday evening as guests of Mrs. Bepp of Webster street. The party was held as a farewell event for her daughter Kimi, who is leaving for Japan on the N. Y. K. liner Taiyo Maru.

Miss Bepp is a member of the Golden Echo Club. Will stay in Japan for two or three years in order to study Japanese language and customs.

BERKELEYANS HOLD MERRY SOCIAL FRI.

MEMBERS OF FELLOWSHIP ALSO ENJOY PARTY

BERKELEY—"Wink! I can't! Then close one eye! Ha-ha—your chair is vacant!"

It was quite surprising to find that some of the girls of the local Epworth League were lamentably deficient in the gentle art of "come hither" looks. Still they were incomparably superior to the boys who nearly always closed both eyes at once.

Besides "wink!" there were other lively games at the Thanksgiving social held here at the Stiles Hall last Friday night.

"Musical chair. March—march keep on marching! You're out—and another chair taken out! Too bad—two souls cannot sit on one chair! Fruit basket—apples, cocoanuts, pineapples, bananas—basket upset! Dump that pillow out and stick it in case right—as fast as you can! Come on—let's beat that other side!"

After such violent forms of entertainment, refreshments of punch and cakes were served, and then papers and pencils were passed out for "ask me another" quiz contest.

"What other ships beside the Mayflower did the Pilgrims know? Worship—no fair yelling out loud—we've got nine more to answer yet. What man did what? Who wrote what?"

As the most "intelligent" answer, "Bill" Takahashi won a costly baby rattle, while "Bow-wow" Kawakami was next with a "2x4" tin drum. Led by Norman Kobayashi, forty youthful Carusos and Farrars burst into rousing California songs and yells to conclude this "Big game" rally and Thanksgiving social. Three cheers for the girls of the Epworth League!

Taxi Strike Called Off

TOKYO, Nov. 19—The Tokyo taxi drivers strike was called off today.

PERUVIANS EASY-GOING SAYS YOUTH

U. C. Man Describes Life In South America

Joseph Hikida, graduate of the University of California and former vice-chairman of the Japanese Young People's Christian Federation of Northern California, left from here some three months ago to assume his new post on the staff of a prominent Japanese trade firm in Lima, Peru. In a letter to one of his friends in San Francisco he gives a graphic description of colorful life in South American countries. We quote the following:

"Since I have arrived in Lima, the home of Inca civilization for more than a century ago, two and a half months have passed. Lima, as you may know, is situated near Callao, a port of Peru on the Pacific. The distance between this port and Lima is about eight miles. Between this port and Lima, there are adequate transportation of street cars, buses, for every five or ten minutes. So Lima is visited by many travelers who stop at Callao on way to New York or on their way to other South American cities such as Valparaiso and Santiago.

"The city of Lima, in its buildings and customs and languages, the Spanish atmosphere dominates. The streets are narrow, the residential houses have walls which are characteristic of the Spanish buildings. The young men on the side walks and young ladies on the porch of second floor are often seen in exchanging conversations. In Lima, as in Spain, the young men are not permitted to visit the homes of young girls. They must stand near at the window or on the street and speak to the girls in the house at the windows or at the porch. I think you are well familiar of this custom from the moving-picture films which show the courtship of the Spanish Senoritas.

"Lima is a city of pleasure and joy but this is only to a limited number of people. It is true the Peruvians are pleasure hunters. No matter whether they are rich or poor, if they have a chance, they like to spend their lives in easy-going pleasures. So, the people are interested in such pastimes as dancing, horse racing, boxing, although such a sport as football is very popular.

"The people here are interested in the game of chances such as lottery and betting. More than three or four people, as a general rule, are selling the lotteries behind each block of street, and this condition is tolerated publicly both by the government and the public opinion.

"Here in Lima we have many holidays and festivals. It is said that more than fifty days in a year are holidays. Since my arrival I had five days of holidays beside Sundays. They are all religious holidays, connected with Catholic Church, which dominates in the religious circles here.

"As this city is very old in its history, everything looks picturesque. The Spanish style dominates even the appearance of the Peruvian army and police force. Every morning, we hear the bugles sounding through the air, and the soldiers are marching through the streets near the presideo.

"The most astonishing incident is that the Peruvians are very luxurious in their dresses. Toward afternoon the main streets are so beautiful both with the passerbys of well dressed ladies and gentlemen and with beautifully decorated shops. The silk goods are the most popular commodities for sale in the stores."

TSURUMI FETED AT LUNCHEON

JAPAN'S YOUNG LIBERAL WELCOMED AT MARK HOPKINS

Yusuke Tsurumi, Japan's young liberal leader and an international lecturer of note, who arrived here Thursday from Japan on Dollar liner President Taft, was tendered a luncheon at the Marks Hopkins Hotel Friday by Vice-President Lynch of the local Chamber of Commerce.

Among the guests at the luncheon included Lyman Wilbur, president of Stanford University and chairman of the recent Institute of Pacific Relations; Paul Scharrenberg, head of the labor movement in San Francisco; and Acting Consul-General Shibata. Tsurumi spoke on the subject of "New Japan." Some thirty prominent local people were present at the luncheon.

MIZUHARA COPS BIG 6 SWAT LEAD

Tomons Hear Good News Of Alma Mater

Much to the elation of the Waseda Tomon residing here in America, news have come from Tokyo to the effect that Yoshiaki Mizuhara, the bespectacled center fielder of the Waseda university team, captured the batting championship of the 1927 "Big Six" Autumn baseball tournament by socking the sphere for a rather high average of .356. Yamashita, right fielder of the Keio Varsity nine, copped second honors in swatting.

Although tied by the Keios in the intercollegiate series standing with four series victories apiece, the Meijis won the Prince Regent Cup on the strength of their attaining a better game average than the Far Eastern Olympic champions, according to Nippu Jiji of Hawaii.

The "Big Six" of Japan Nines includes the leading universities namely Waseda, Keio, Meiji, Hosei, Teidai, and Rikkyo.

Mizuhara, it may be recalled, performed right garden duty when the Waseda Varsity made its tour of Pacific coast this summer, playing against various Japanese combines.

Jiujitsu Club Fetes Usuda

The members of the local Jiujitsu Club of the Japanese Y. M. C. A. gave a tea party Wednesday evening, in honor of Kintaro Usuda, new welter weight champion of the Far Western Division.

The Jiujitsu Club is composed of a group of young jiujitsu enthusiasts of this city, and because of their interest in sports in general they undertook to honor the new ring champion and encourage him to achieve higher victories. A fine spirit of fellowship was experienced at the meeting by everyone, and the gathering disbanded at eleven-thirty o'clock.

Educator Proposes Outlawing of War

Special to the Japanese American News

TOKYO, Nov. 19—Prof. Kenzo Takayanagi of the Imperial University, one of the prominent leaders of the new thought in Japan, has created a sensation here by an article in this month's Kaizo, in which he advocates the signing of a treaty between the United States and Japan, outlawing war.

DO YOU KNOW WHY --- Fame Is Sometimes A Great Bore? — Drawn for this paper By Fisher

生活の改善は先づ御臺所から
御台所の生活と經濟は亞細亞商會から
米、醬油、其他の食料品は斯界の逸品のみを取扱つて居ります
卸小賣共大勉強いたします
物價表は御申越次第御郵送いたします

羅府東壹街二四九-二五三 雜貨部
電話タッカー(八八)七二五七
株式會社 亞細亞商會
羅府東壹街二三五 食料品部
電話バンダイク(八二)七〇一八